

第 354 回金沢眼科集談会のご案内

日 程：令和 7 年 4 月 6 日（日）10:00～13:00

会 場：ホテル金沢（金沢市堀川新町 1 番 1 号 TEL: 076-223-1111）

※現地開催のみの予定です

【参加方法】

- ・ 事前登録の必要はございません
- ・ 会費は 3,000 円です
当日会場にて現金でのお支払いをお願い致します

【取得単位について】

- ・ 本会は専門医制度生涯教育事業（No.59003）として認定されており、
参加者は 1.5 単位を取得できます

【情報交換会について】

- ・ 講演会終了後、情報交換の場をご用意させていただいております

-次回ご案内-

2025 年 12 月 14 日（日）10:00～13:00

金沢ニューグランドホテル

共催：金沢眼科集談会 参天製薬株式会社

<プログラム>

一般講演 10:00～11:00

座長：小林 顕 先生

- ① 当院における培養角膜内皮細胞移植（ビズノバ®）の早期臨床成績
○畑田穂奈美¹⁾²⁾、小林顕¹⁾、森奈津子¹⁾、横川英明¹⁾、東出朋巳¹⁾
1) 金沢大 2) 能美市立病院
- ② 当院における IPL 治療～慢性 GVHD による重症ドライアイ症例～
○森奈津子、横川英明、小林顕、東出朋巳（金沢大）

座長：高比良 雅之 先生

- ③ 回折型老視矯正眼内レンズ挿入眼の waxy vision に対する硝子体手術成績
○水戸毅、五十嵐清香、伏江真奈、遠藤颯大、出口優央、佐々木洋（金沢医大）
- ④ 加齢黄斑変性による黄斑下出血に伴う網膜色素上皮裂孔
○コンソルボ上田朋子、石田聖朗、柳沢秀一郎、林篤志（富山大）
- ⑤ 血管新生緑内障に対する緑内障手術の治療成績
○友田彩水、岩崎健太郎、稲谷大（福井大）

特別講演① 11:00～12:00

座長：東出 朋巳 先生

「近視関連疾患の診断治療 Update」

いくの眼科 院長 生野 恭司 先生

特別講演② 12:00～13:00

座長：杉山 和久 先生

「日本眼科医会が目指すこと ―未来を見据えた眼科医療活動―」

公益社団法人日本眼科医会 会長 白根 雅子 先生

特別講演① 「近視関連疾患の診断治療 Update」

いくの眼科 院長 生野 恭司 先生

中心窩分離症は後部ぶどう腫の形成にともない生じるが、重症例以外は、眼底所見による診断は困難で、OCTが必須である。進行すると中心窩付近から網膜剥離を生じ、黄斑円孔網膜剥離に至る。手術適応は未だ議論の余地があるが、中心窩網膜剥離により視力が低下した症例が効果的である。後部硝子体剥離作成、Fovea-sparing ILM peelingが標準術式である。黄斑円孔網膜剥離も同様に手術の良い適応だが、最近ではInverted flap ILM peeling techniqueを用いることが多い。難治例には、シリコンオイルの使用を考慮する。従来難治で治療成績バラつきが多い両疾患であったが、技術の進歩に伴い手術成績も安定してきた。近視性脈絡膜新生血管は、小さな白色～褐色病変で、変視を訴えることが多い。色素上皮を穿破して網膜下に侵入する脈絡膜新生血管像がOCTで見られ、典型例では、網膜下液や軽度の出血を認める。治療は、抗血管新生療法である。多くは単回投与により下液の消失と新生血管の退縮が得られるが、抵抗例や再発例が見られ、その対処法が今後の課題となろう。また最近では明らかなCNVを認めないが網膜剥離や網膜浮腫のみを認める極早期例への治療が注目を集めている。

Blank lined area for notes or response.

